



切らずに治すがん治療 ～放射線治療のお話～

川崎幸病院 副院長
放射線治療センター長

田中 良明 先生

放射線療法はからだを切らずに、がんだけを狙って治療するので、からだの機能をもとのまま温存することができます。また、日常生活を送りながら通院で治療を受けることも可能です。

● がん治療の種類 ～三大療法～

がんの治療方法には、「手術療法」・「化学（抗がん剤）療法」・「放射線療法」があり、これをがんの三大療法と呼んでいます。わが国ではこれまで手術ががん治療の中心でしたが、化学療法や放射線療法も近年目覚しく進歩しています。どの治療法がもっとも効果的か、さまざまな検査を行いながら総合的に判断し患者さんに提案しています。



川崎幸病院の放射線治療装置 エレクタ・シナジー®

● なぜ放射線でがんが治るのか？

放射線療法とは放射線を照射することにより、がん細胞内のDNAにダメージを与え、がん細胞を死滅させる治療です。放射線はがん細胞のような細胞分裂の活発な細胞ほど殺傷しやすい性質があるため、正常な細胞にはあまり影響を与えずに、がん細胞を殺傷することができます。

また正常な細胞は放射線によるダメージからの回復ががん細胞よりも大きいため、放射線の量を小分けにして照射することで正常細胞を回復させつつ、がん細胞をたたいていきます。

● 放射線治療の長所

放射線治療は治すことを目的としての治療から、症状を和らげるための治療まで幅広い役割を担うことができる治療です。

身体を切らず治療中の痛みもないので、身体的な負担が軽い治療法といえます。負担が少ないので、年齢や合併症により身体に負担がかかる手術治療が難しい患者さんへの治療も可能です。また、外科手術が難しい場所にあるがんに対しても放射線治療は有効です。

● 放射線治療の副作用

放射線照射による副作用や後遺症が起きる可能性があります。しかし、放射線治療の副作用は、放射線を照射した場所のみに起きるといった特徴があり、放射線を照射していない場所には原則として副作用は出ません。また、副作用も治療を受けた方全員に見られるわけではないですし、治療スタッフもやさしい放射線治療を心がけております。

担当医は、あなたの病気の進行度や状態に合わせて、最適と考えられる治療法や他の選択肢を提示し説明します。担当医からの説明を理解し、納得したうえで、どの治療法を選ぶかを決めるのは患者さんご自身とご家族です。わからないことがあれば理解できるまで担当医に質問し、また、必要であればセカンドオピニオンを参考にするのも良いでしょう。


 社会医療法人財団 石心会 川崎幸病院
放射線治療センター

☎：044-544-4611（代表）

随時ご質問、ご相談にお応えいたします。
お気軽にお電話にてお問い合わせください。